

# 令和2年度 自己評価・学校関係者評価

岐阜県立加納高等学校 学校番号 5

<b>1 学校教育目標</b>	<p>「21世紀における国家・社会のリーダーを育てる」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大志を実現するため、学問を尊ぶ気風を広め、高い学力を養う。</li> <li>2. 濃やかな感性と国際的な感覚を養うため、文化を尊重する校風をつくる。</li> <li>3. 品性ある豊かな人間性を身に付けるため、高い道徳観及び倫理観を培う。</li> </ol>
-----------------	--

## I 自己評価 【 教務部 】

<b>2 現状の分析</b>	<p>○自分の将来像を考え、その実現のために主体的に学習に取り組み始める時期が遅い生徒が多く見られる。</p> <p>○生徒、保護者を対象とするアンケート（令和元年7月実施）では、教職員の学習指導への姿勢や、授業内容等への信頼度は高いことが分かる。その一方で、能力に応じた指導を行っていると感じている生徒は7割弱となっており、指導方法の工夫が求められている。</p> <p>○「地域共創フラッグシップハイスクール（FRH）事業」が始まり、1年生を中心に探究的な学習を通して地域課題の発見とその背景について考察した。論理的思考力や課題解決能力など、社会に求められる力を育成するための方法の一つとして取り組んでいく。</p>
<b>3 学校の抱える課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 進路指導部と連携を図りながら、生徒の学習習慣の確立とキャリアデザインを進める。</li> <li>● 「本時の目標」の定着を図り、生徒が目的意識をもって授業に臨む習慣を身に付けさせる。</li> <li>● 教科会の充実を図り、「言語活動」「アクティブラーニング」「ICT機器」を取り入れた授業研究を行う。</li> </ul>
<b>4 今年度の具体的な重点目標</b>	<p>◇授業を重視し、主体的に学習に取り組む姿勢を育成する。</p> <p>◇授業改善への取組を推進する。</p>

### 年 度 目 標

### 年 度 末 評 価

5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標					8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合評価		
		※外部アンケート (保護者・生徒)		※学習時間調査 (学)								
		指標		前年	結果							
教務部 ◇学習指導	(1) 学習時間調査の分析 (2) 生徒による授業評価の分析	学	週当たりの学習時間 21 時間		1年	30%	18%	学習への取組が不十分。目的意識をもたせる指導が不徹底であることが考えられる。	C	年度当初の臨時休業の影響もあり、学習習慣を軌道に乗せるまでに時間がかかった。サポートが十分に行き届かなかった点があったのか、やや昨年よりも評価が下がった。今後、家庭学習の取組と授業が両輪となるよう、指導の工夫を進めたい。	B	
			達成率		2年	40%	22%					11%
			※10月調査結果		3年	90%	94%					88%
	生	専門的知識が豊富であり、授業内容は信頼できる。		90%		89%	87%	B				
保		本校では、生徒にとって有益であり力になる授業が展開されている。		90%		90%	82%	B				
					90%		90%	81%	B			

### 12 来年度に向けての改善方策

臨時休業等のない落ち着いた環境で、継続的な指導を行い、LHRなどでライフプランについて考える機会を設けるとともに、自分の将来のために主体的に学習に取り組む姿勢を育てたい。また授業改善を進め、家庭学習と授業とがリンクするような指導を行っていくよう働きかけていく。

I 自己評価

【 進路指導部 】

2 現状の分析	<p>○ハイレベルな模試に挑戦する生徒が増えた。</p> <p>○全校体制で入試対策期間における個別指導に取り組むことができた。</p> <p>▲週末2日間で学習時間(10時間)の確保を図り、週あたりの学習時間21時間達成率の向上を図る。</p> <p>▲校外で実施される公開講座への参加者が少ない。</p>
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的な学習習慣の確立と生徒の学力向上</li> <li>キャリア教育の推進</li> <li>2020年度入試改革に向けた取り組み</li> </ul>
4 今年度の具体的な重点目標	<p>◇知的好奇心を発掘し、主体的な学習姿勢を育み、学習意欲の向上や学習習慣の確立を図るとともに、模試等の結果分析を授業改善に結び付ける。</p> <p>◇学校での「学び」と自らの将来との接点を認識させることにより、新たな学習課題を発見させ、教科等を学ぶ本質的な意義を明確にする。</p> <p>◇「思考力・判断力・表現力」や「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」の育成を図る。</p>

年 度 目 標				年 度 末 (途中) 評 価					
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標 ※アンケート (保護者・生徒・教員)			8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価	
		指標	前年	結果					
進路指導部 ◇進路指導	(1) 外部講師による講演会 (2) システム手帳の活用(テストを活用した到達目標の設定) ※ポートフォリオ作成(学修の記録)⇒PDCAサイクルの確立 (3) 「総合的な学習の時間」の活用 ※高校での「学び」と自らの将来の接点の認識 (4) 「進学指導重点校事業」の活用 ※上位層の伸長・探究学習への取り組み (5) 学びみらいPASS・リクエスト講座の活用 ※「思考力・判断力・表現力」(新入試対応力)の育成	生	1月の週あたりの学習時間21時間達成率(※3年は10月)	1年	35%	18%	18%	C	○ハイレベル模試に挑戦する生徒の増加 2年10月 45名⇒1月 224名 ○講演会などに対する生徒の評価は好評であった。 ▲新型コロナウイルス感染症の拡大により、1年生向けの系統別大学説明会が実施できなかった。 ▲新型コロナウイルス感染症の拡大により、各種の体験に参加できなかった。 ▲新型コロナウイルス感染症の拡大により、保護者進路研修会を動画による配信へと変更した。 ▲例年と比べると外部模試への取り組みが十分でない。
			2年	40%	22%	11%			
			3年	90%	94%	88%			
		保	学校は進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている。		90%	88%	64%	C	
		生	学校は生徒に様々な(適した)進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている。		90%	85%	77%		
		◇国公立大現役合格者(R2入試)		170名	169名	名			
◇志望上位国公立4大学現役合格者		80名	62名	名					
◇国公立難関大現役合格者		20名	10名	名					

12 来年度に向けての改善方策

日々の振り返りや進路探究学習を通じて、目標設定を明確にする中で、自ら学習に向かう姿勢を育成する。

# I 自己評価

## 【 生徒指導部 】

2 現状の分析	<p>○基本的な生活習慣の確立は、保護者との連携も図られ、概ね良好である。5分前登校については、定着されつつある。</p> <p>▲交通事故件数は、昨年度より減少した。(23件→14件、12月末時点) 継続的なルールの遵守とマナーアップ指導をしていく。</p> <p>▲情報モラルについてはやや改善されたが、校内でのスマホの時間外使用やスマホ依存が疑われる生徒が増加傾向にある。</p> <p>○スクールカウンセラーとの連携し、充実した教育相談活動ができた。また、いじめ事案に対して迅速な対応ができた。(2件→6件、12月末時点)</p>
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校の教育活動全体を通じた交通安全啓発活動を推進する。目標は交通事故年間20件以下。</li> <li>● ケータイ・スマホの使用方法等について生徒に考えさせ、よりよい使用法を身に付けさせる。</li> <li>● 身だしなみ指導(「フォーマルウィーク」など)の継続</li> <li>● 遅刻を減らすために余裕をもった登校と「8時25分全員着席」を学年会・HR担任及び保護者とも協力して徹底する。</li> <li>● 教育相談活動のさらなる充実を図る。</li> </ul>
4 今年度の具体的な重点目標	<p>◇基本的な生活習慣とモラル・マナーの定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身だしなみ、8時25分登校完了(遅刻をしない)、挨拶、安全マナーなどを身に付けた品位と規律ある生徒の育成を目指す。</li> </ul> <p>◇教育相談活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様化する生徒への対応について、生徒理解に努め、相談スキルの向上を図る。</li> </ul>

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価						
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標 ※アンケート (保護者・生徒・教員)	指標	前年	結果	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・ C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
生徒指導部 ◇生活指導 ◇教育相談 ◇人権教育	(1) 全職員による指導体制の確立	保 高校生としてふさわしい服装、頭髪等の指導を行っている。	90%	87%	82%	コロナ禍で制服以外の服装を許可。おおむね良好である。	A	○基本的な生活習慣の確立は保護者と連携が図られている。	A
	(2) MSリーダーズやPTAと連携した交通安全運動	生徒の遅刻数(12月末)	*	1134	1197	コロナ対応により欠席数は激減したが、遅刻数は昨年並み、休校期間中に生活習慣確立の啓発が不十分であった。	B	●新入生や新学年の基本的な生活習慣の啓発を検討	
	(3) 全職員による遅刻数減少の取組及び登校時の声かけ指導	保 挨拶や遅刻防止など、基本生活習慣の育成指導を保護者と連携をとって進めている。	85%	79%	67%	休校期間中に生活習慣確立の啓発が不十分であった。	B	○登校時指導や交通安全活動により交通事故件数が減少した。	
	(4) 職員研修会(発達障害に関するもの)	保 交通安全面や衛生面に配慮し交通安全、健康管理等を指導している。	90%	79%	79%	昨年より減少したが自損事故が目立った。出会い頭での接触事故が依然として多い。	B	●出会い頭での事故防止のため交通ルールやマナーの啓発を行う。	
	(5) 人権教育の推進	交通安全啓発活動(12月末)	*	14回	7回			○スクールカウンセラーと連携した教育相談ができた。	
		生 悩みについて担任以外の相談窓口を十分知らせている。	70%	69%	71%	担任やスクールカウンセラーと連携した教育相談ができた。	A	○アンケートなどをメールでの回答に変更したため、いじめの認知件数は倍増したが、早期発見、早期対応に繋がった。	
		生 悩みごとなどに親切に対応してくれる先生が多い	80%	73%	72%	アンケートをもとにいじめの早期発見に努めている。		●多様化する生徒への対応	
12 来年度に向けての改善方策	今年度中止した講話をWeb会議の形式でも実施できるようにする。また、基本的な生活習慣を身に付けるさせるため、ルールやマナーについて新学期に周知する。多様化する生徒に対しての知識や情報共有を一層図るために、教育相談研修会を早い時期に開催する。								

I 自己評価

【 特活指導部 】

<p>2 現状の分析</p>	<p>○生徒会執行部の活動が活発に行われている。「生活安全改善アンケート」の結果に基づき生徒議会から要望を提出した結果、文理の教室配置についての要望も認められた。</p> <p>○球技大会、スポーツ大会の服装について、数年前と比べ、大きくルールから逸脱する生徒はいなくなった。</p> <p>○部活動関係の各種手続きについて、手引き書を明確化することにより、混乱なく処理することができた。</p> <p>▲長年、保育園ボランティアを年2回実施してきたが、業務の見直しにより12月の保育園ボランティアを廃止したことは残念であった。</p> <p>▲算数ボランティアが新型コロナウイルスの影響で中止となり、ボランティア活動の機会が減ってしまった。今年度は是非、活動に協力したい。</p>
<p>3 学校の抱える課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 白梅祭における発表場所およびバンドを含む発表団体の再考と白梅祭期間中の暑さ対策</li> <li>● 普通科・音楽科・美術科の特徴を生かした学校行事の運営</li> <li>● 部の精選</li> <li>● 業務内容の質量に見合った部顧問配置</li> </ul>
<p>4 今年度の具体的な重点目標</p>	<p>(1) 加納高生としての社会的モラルの向上に向けた取組 (2) 様々な行事を通して、自主性を育み、共に向き合う力の育成</p> <p>(3) 業務の見直し(「例年通り」ではなく、「必要なことを行う」というスタンス) (4) 部活動の円滑な運営</p>

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価						
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標 ※アンケート (保護者・生徒・教員)	指標	前年	結果	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
<p>特活指導部 ◇特活指導</p>	<p>(1) 学校生活全般を振り返る機会をつくる。(生徒会新聞や放送による呼びかけ)</p> <p>(2) 代表生徒(執行部)と特活指導部の共通理解</p> <p>(3) 各種業務のシミュレーションにより、本当に必要な内容を洗い出し、余分を省く。</p> <p>(4) 部活動の円滑な運営</p>	<p>生</p> <p>本校の学校行事は、充実している</p> <p>本校は、部活動が活発である</p> <p>本校は、生徒会活動が活発である</p> <p>週一回の執行部会における意見交換</p> <p>定期的な特活指導部会の開催(部内での情報共有)</p> <p>4月の部顧問会議での共通理解および事務担当者との連携を図る。</p>	<p>90%</p> <p>85%</p> <p>70%</p> <p>*</p> <p>*</p> <p>*</p>	<p>91%</p> <p>82%</p> <p>70%</p> <p>*</p> <p>*</p> <p>*</p>	<p>67%</p> <p>80%</p> <p>61%</p> <p>*</p> <p>*</p> <p>*</p>	<p>コロナの影響により、学校行事、部活動ともに大きく制限された一年であったが、その中で、できることを考え、実行した。</p> <p>執行部の生徒の責任感と自主性が育まれた。</p> <p>行事が少なかったこともあり特活全体で取り組む機会は少なかった。</p> <p>年度途中に予算執行のルール等に変更があり、混乱した。</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>コロナ禍において、行事が次々と中止される中、生徒の活躍場面の創出に力を入れた。文化祭に代わる『なんちゃって白梅祭』や、新しい運営スタイルの『球技大会』など、制限がある中で、どうしたら実施できるかを考える機会となった。</p> <p>後期生徒会では、新たに校則の見直しに向けての取組みがスタートし、学校生活を考えさせる機会となった。</p>	<p>B</p>

<p>12 来年度に向けての改善方策</p> <p>白梅祭を始めとする学校行事を衰退させないよう、コロナ禍での開催方法や、アフターコロナでの開催方法を他校での取組等を参考に、考えていく必要がある。</p>
--



I 自己評価

【 保健厚生部 】

2 現状の分析	<p>▲健康診断の結果をもとに自らの生活・健康管理を行うことができる。</p> <p>○「警報訓練」をきっかけに学校生活における防災(減災)について考える機会を増やすことができた。</p> <p>▲生徒の防災意識は向上してきたので、家庭・地域の連携のため活動を増やす。</p> <p>○環境整備を目的とした大掃除を、定期的の実施できるよう年間計画に位置づけた。</p>
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康診断の事後指導への意識をさらに高める。</li> <li>生徒総務委員を中心に防災意識を高める活動を実施し、防災・備蓄品の整備をさらに進める。</li> <li>校内各箇所の清掃ポイントを明確にし、不用品の処分など周辺を整理して安全な環境を保つ。</li> </ul>
4 今年度の具体的な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 健康や安全を客観的に評価し改善する。</li> <li>◇ 事故や災害などに対する、防災意識を高める。</li> <li>◇ 常に校内美化の意識を持ち、清掃等の徹底と生活環境の整備をする。</li> </ul>

年度目標						年度末評価				
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標				8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価	
		※アンケート(保護者・生徒・教員)	指標	前年	結果					
保健厚生部	(1) 自らの健康・安全への意識を高める。	保	生徒の安全面や衛生面に考慮し、交通事故や健康管理などの指導をしている。	90%	79%	89%	定期健康診断を基にした健康指導(受診勧告等)	B	<p>○健康診断を受けた生徒が事後受診など健康管理への意識を高めるような指導を工夫する。</p> <p>○コロナ感染対策により、感染症の流行を抑えることができた。</p> <p>○在校時の非常変災時への対応については意識が高くなってきた。引き続き、非常変災時への対応ができるようにする。</p> <p>▲日頃から、全校生徒が校内をきれいに保つ意識をもてるようにする。</p>	B
	(2) 全職員で安全点検し、危険箇所等の早期発見と改善への対応。	保	生徒に地震や台風の場合の対応マニュアルをはっきり示している	90%	94%	95%	非常変災時の対応について学校と家庭の連携	A		
	(3) 校内での地震対応を生徒に周知し、訓練を繰り返し実施する		訓練による校内の危険や避難等への対応を周知	*	*	*	今年度は、コロナ感染対策で、十分な訓練は実施できなかったが、意識付けは行えた。今後、家庭においても災害に対するより一層の意識向上を図る。	B		
	(4) 変災時に対する備蓄の検討。		災害に対する意識向上と、生徒用備蓄および緊急対応備品を常に確認	*	*	*				
	(5) 日頃から、環境美化に対する意識向上の実践を図る。	生	本校は、清掃が行き届いており校内がきれいである。	61%	56%	64%	大掃除では清掃のポイントの明示	C		

12 来年度に向けての改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、コロナ感染症対策を中心に、感染対策に重点を置く。</li> <li>防災意識を、学校だけでなく、家庭でも考えられる取り組みを行う。</li> <li>環境美化に対する意識を、美化委員会を通じて、日常的に行う。</li> </ul>
-----------------	---

# I 自己評価

## 【 図 書 部 】

2 現状の分析	<p>○生徒が自分たちでアイデアを出し合い、白梅祭や読書旬間などに意欲的に取り組んだ。</p> <p>○朝の読書は一定の成果が得られた。(不読者率の減少)</p> <p>▲図書室の利用者数はやや減少傾向にある。</p>								
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度に引き続き、教科・分掌・学年との連携を図る。</li> <li>生徒が少しでも本に興味をもてるように、広報活動を積極的に行う。</li> <li>読書指導法の研究を行う。</li> </ul>								
4 今年度の具体的な重点目標	<p>◇自ら本を手に取り、意欲的に読書活動を行う生徒を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各教科、分掌、学年と連携を図る。</li> <li>委員会活動の活性化を図る。</li> </ul>								
年 度 目 標			年 度 末 評 価						
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標 ※アンケート(保護者・生徒・教員)			8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	11 総合 評価		
		指標	前年	結果				10 成果と課題	
図書部	(1) 朝の読書や「総合的な学習の時間」を効果的に利用する。	生	朝読書が有意義であった	90%	94%	*	<p>新型コロナウイルス感染症対策によって朝読書など図書館の行事が実施できず、図書館活動が制約された。</p> <p>感染予防をとりながらの活動となった。</p>	<p><b>C</b></p> <p>▲文化祭、芸術鑑賞などが中止となり、感染予防対策に追われる活動となった。</p> <p>○後期からは来館者も増加し、昨年を大幅に超える貸出数になった。</p> <p>▲一人あたりの貸出冊数は2.87冊(4~1月)であった。</p>	<b>B</b>
		生	生徒は、学習習慣とともに読書習慣がついている。(不読者率)	50%	36%	*			
	(2) 年間を通した委員会活動の計画		図書貸出冊数(4~1月まで)	4000冊	3787冊	3315冊			
	(3) 学級文庫の設置をする。		委員会活動は生徒の自主的な活動になっていたか。						
12 来年度に向けての改善方策									
<p>・with コロナにあっても安心して図書館が利用できるような予防対策に心がけ、図書行事や活動を実施可能にする企画立案を工夫する。委員会活動も感染予防に注意しながら意欲的な取組を支援する。</p>									

## II 学校関係者評価 (令和3年2月)

- ・学習への取組が不十分との評価結果が出ているが、今年度当初の休校もあり、自己学習が思うように捗らなかったのではないかと、先生や友人との交わりが少なくなり、孤立した生徒はいなかったか心配される。
- ・「FRH」事業で取り組んでいる内容に大変興味をひかれた。生徒自身が考え、課題を発見し、その解決策を提案できる力をつけるための指導を今後も継続してほしい。
- ・報道で制服以外の服装での登校について知った。コロナの蔓延や猛暑など、近年の厳しい状況を考慮すると、校則の改正についても柔軟な対応が必要だと感じる。
- ・生徒の社会に対する視野を広め、社会の現状を知るのは進路決定に至る重要な要素であると思う。各家庭でも、保護者と生徒の話し合いを通して、社会を知り自分自身の将来を決定するように働きかけることも大切である。
- ・高校になると、授業参観や学校行事を見る機会がぐんと減る。学校での様子など、もう少しかがうことができるとよいと思う。

